



Q 中学生になった長男の口数が少なくなりました。夫は「放つとけ」と言っているのですが、いいのでしょうか？

A ここはご主人の意見に合わせて息子さんを見守り、和やかな家庭にするよう努力すればいいでしょう。

揺れる思春期

中学生になって話さなくなる
と、「学校で何かあったのかしら」と、母親は不安になります。でも思春期に男の子が黙り込むのは、よくあることです。

思春期は第二次性徴の発現期ですから、男子であれ、女子であれ、大人の身体になった自分を受け入れることが課題となります。急激な身体的変化に心の成長が追い付かないので、自分に戸惑って口数が少なくなることもあるのです。

これは、いつの時代にもあったこと。娘の場合は母親を見て

結婚・出産などの将来像を描きますが、息子の場合は父親を乗り越えるという課題があります。

何も対立する必要はなく、父親と一緒にどこかへ行くのもいいでしょう。会話が弾まなくても親がそばで見守っているというメッセージは伝わります。

大人のつながりで見守る

父親にとつては自分も通過してきた思春期ですから、「放つとけ」という言葉にはそれなりの意味があります。母性はすべてを受容する性質が強く、夫婦関係が弱いと母親は子供に過干渉になりがちです。そうならない

ためには夫婦仲良くするのが一番で、夫婦・親子のバランスを取ることが望ましいのです。

中学生は心身の変化に戸惑うだけでなく、部活動や勉強、友人関係など、さまざまなストレスを抱えています。心身ともに疲れてオーバーワーク気味かもしれないません。こうした悩みは親より友達に相談することが多いので、深刻な悩みは、子供たち同士では共有されていても、親の耳には入ってこないこともあります。子供たちが思春期になったら、親同士や学校の先生方と一緒に子供たちを育てるというスタンスが大切になりますね。